

様式1

平成 27 年度 学校評価表

学校教育目標 「たのもしい人格の形成」	
a ミッション	生徒指導の三機能を生かした指導のあり方の研究 ・学習モデル・生活モデルの確立 ・授業改善推進による学力向上
a ビジョン	経営のキーワード 【教師の輝き】 「因島南小の職員としてのアイデンティティ、自律、挑戦」 【子どもの輝き】 「子どもたちへの愛情（目配り、気配り）があふれる実践」 【学校の輝き】 「徹底から生じる美しさ・落ち着き」

尾道市立因島南小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	1月				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	学力の向上	基礎・基本の学力の定着	○「目指せ！みなみの5つ星」の指導を徹底する。	80% 3点	104% 87%	104.4% 109.6%	101.3%	A	自己評価で肯定的評価をした児童の割合は以下の通りである。 返事：88.3% 聞き方：83.3% 話し方：88.7% 学習用具：89.0% 文字：82.8% これに対し、担任評価の平均は以下の通りである。 返事：2.7 聞き方：2.5 話し方：2.2 学習用具：3.0 文字：2.7 自己評価が比較的低い項目では担任の評価も少し下がっている。聞き方と文字の書き方について、重点的な取組が必要である。	3			○子どもたちに対し、いろいろな工夫をされていると思います。月曜日、木曜日の補充学習が、今後の学力のアップに繋がることを期待しています。 ○まだまだ良くなると思います。改善案が進めば達成度はすぐに上がると思います ○授業の発表者に全員が姿勢を正しく向けているのを見て、発表者も評価されていると感じているので、続けて欲しい。	○「聞き方」については、聞き方の型を学年段階に応じて示し、児童が意識して相手の話を聞けるように指導する。また、意見交流の後は必ず質問をさせる、相手の意見を全体交流で発表させる等、聞かざるを得ない場面を計画的に設定する。 ○「話し方」の教師側が求める姿と児童のイメージが近づくよう、再度話型に返り、それを基準にした話し方の指導を行う。 ○「濃く丁寧な字を書く」ことについては、ノートチャンピオンも活用し、よい書き方のモデルを示す。提出物の文字を、濃く丁寧に書いている場合はしっかりと肯定的に評価し、書けていない場合には書き直しをさせる。 ○月曜日、木曜日の放課後を補充学習の時間に充てる。（全校での取組）
豊かな心の育成	心力の向上	学校や生活のルールを理解し、自分で考えて行動できる児童の育成。	○児童自らが「因島南小学校 4つのきまり」を守る意識が持てる取組を学期に2回行う。 ○道徳や特別活動、学校行事を通して、規範意識や自己有用感を育て、自立心を養う。	80%	85% 75%	107.5% 76.3%	86%	A	○「因島南小 4つのきまり」についての児童の自己評価（肯定的評価）はどの項目においても80%以上で児童の意識化は図られている。 ○黙想タイムの取組を通して、動きを止めて話を聞くことができる児童が増えた。また、黙想で培った力を授業態度に転化する児童が現れた。 ○児童の自主的、自治的活動を支援するはきもの揃えは、児童の意識は高まり、自己管理できる児童が増えた。「はきもの揃え係」を全学級に位置付け、点検（実態の把握）・報告・課題解決のための話し合い活動を展開した結果、自分のはきものはもとより、友だちのはきものをさりげなく揃える児童も出てきた。 ●あいさつに係わっては、「因島南小 あいさつの木」の取組を展開した。カードを配布し児童のあいさつを評価した。取組を通して、あいさつへの動機付けにはなったが、あいさつの意義や目的を十分理解し自ら進んであいさつをする児童は十分とは言えない。 ○自己有用感や自己肯定感を高めるためのソーシャルスキルトレーニングを意図的、計画的に実施した。 ●「自分に満足している」児童の割合は上昇してきたが、自己有用感を持っている児童の割合は十分でない。	3			○学校でのきまりを守れる様になったよなので、次は、家庭・地域等学校外でもできるように取組がつながっていけることを期待しています。 ○みるみるよくなっているという印象です。先生方の努力のおかげだと思います。 ○玄関口に取組の成果が貼られているのを見て、確実に実を結んでいることを実感し、先生方の努力の成果と感じている。引き続きがんばって欲しい。	○教師による一層の共感的、受容的な評価の実施と評価と一体となった指導を継続し、成果を積み上げていく。 ○児童自らが創意工夫ができるよう、指導が適切であったかを評価し、指導方法の工夫改善を図る。 ○トイレのスリッパ等、公共の物を揃えることに目標を上げる。 ○今年度の成果と課題を明確にし、友だちや自分のよさを実感する活動（学級活動・体験活動・学校行事）の年間計画を見直す。効果を高めるための指導法や評価を工夫改善する。 ○自己有用感や自己肯定感を高めるためのソーシャルスキルトレーニングの取組を教育研究部と協働で一層の充実を目指す。
健やかな体の育成	体力の向上	自分の健康について、自分で考えて行動できる児童の育成。	○給食後の「歯みがき」指導を徹底する。	90%	80%	80%	80%	B	○歯磨き週間として、2学期は9・11月、3学期は1月を実施した。更に虫歯の日として各月の8日に実施をした。 90%以上歯磨きを実施した児童には学期ごとに個別に賞を設け、各学級で表彰を行い、肯定的評価を行った。 課題としては、歯磨きができていない児童が定着してきていることが挙げられる。また、各学期初めの5日間の取組では良い数値になるが、後半の5日間で意識が低下しているのか数値が低くなっている。 ○歯みがきの課題と合わせて、給食の残滓を減らす取組を呼びかけ、給食準備の時間の短縮によって食事時間を確保するように行っている。	3			○「歯磨きを実施した」と「きちんと歯磨きができた」は異なると思うので、保護者をもっとまきこんで「きちんとできた」の数が増える様にしていっても良いと思います。 ○保護者の意識が大切です。 ○保護者啓発の手法も研究課題と思います。	○校内の掲示板や保健だよりなどで歯磨き週間のお知らせを継続しておこない、普段の歯磨き指導に活かしていきたい。まずは、歯ブラシを持ってこることを継続して取り組んでいきたい。また、虫歯治療が37%（2学期初め11%）であり、治療と合わせて保護者への啓発を継続しておこなう必要がある。
信頼される学校	信頼度向上	新しい学校として保護者とのつながりを深める。	○学校で起こった「輝いたこと」の積極的な発信。 ・学校便り、学級便り、HPによる情報発信 ○不祥事防止に向けた服務研修の実施。 ・通知文による指導の徹底（毎回） ・服務規律研修の定例化	100%	100%	100%	100%	A	○学年・学級通信や学校だよりの発行については目標を達成した。内容面についても、伝えたいことなど学年で吟味するなどして充実を図り、学級による温度差を埋めていった。HPについては、行事を中心に、タイムリーな更新をした。更新頻度を増やすための組織の見直しをする必要がある。今後も保護者・地域へ発信していきたい。 ○服務研修も、計画的に行い、職員の規範意識の向上等につながっている。	3			○ホームページで児童の写真等が見られ、よく活動がわかりやすいですが、地域の方でホームページを見る環境がない方達には伝わりにくく思います。公民館等に貼り出したりできれば良いと思います。 ○大変良いと思っています。 ○学校だよりの配布先も一考してはどうか。回覧で済んだ、または読んでくれていたと思わないでください。	○学校だよりと、学級・学年通信の内容の重なりをなくすなど、伝えたい内容の吟味を今後も行っていきたい。引き続き新鮮な情報を供給できるように計画的に作成する。 ○HPについては、担当者のチームを機能させ、計画的に更新できるようにしていく。

【自己評価 評価】  
A：100≦（目標達成）  
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100  
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。